

## ADPKD 関西医大附属病院腎センターからのお知らせ

### 常染色体優性多発性嚢胞腎 (ADPKD) 患者様への早期治療のご案内

平成 29 年 10 月

日頃より関西医大附属病院腎センターをご支援頂き、ありがとうございます。

常染色体優性多発性嚢胞腎(Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease : ADPKD)は両側の腎臓に多数の嚢胞が発生・増大し、腎臓以外の種々の臓器にも障害が生じる最も頻度の高い遺伝性疾患です。嚢胞の増大にともない、進行性に腎機能が低下し 60 歳代で約半数が末期腎不全、透析に至ると推測されています。また優性遺伝の家族集積があり、お子様は 50%の確率で発症リスクがあります。

ADPKD には、これまで根本的な治療法はなく、高血圧、嚢胞感染などの合併症に対する対症療法のみが行われておりました。しかし 2014 年 3 月にトルバプタンが「常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制」の効能で、世界で初めて承認されました。また 2015 (平成 27) 年 1 月施行の難病法で本疾患が指定され(指定難病 67)、専門医による診断と申請手続きで、難病助成が受けられることとなりました。

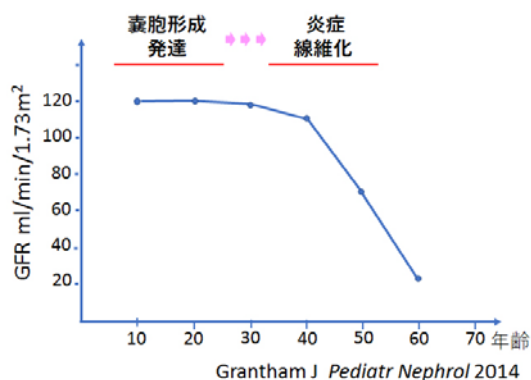
腎センターでは、腎機能評価・画像評価から難病申請、受療が可能です。また遺伝に関するご疑問や心配があれば、専門医・遺伝カウンセラーに相談できます。本疾患が疑われる患者様がおられましたら、まずは下記診療日をご指定の上、地域医療連携部病診連携課に別紙の「患者保険情報連絡票」を FAX (072) 804-2861 にてご紹介下さい。

ADPKD 腹部超音波画像



ADPKD ガイドライン 2017年

ADPKDにおけるGFR低下



初診・再診受付：8:30～13:00

担当医： 今田崇裕(月)、草部牧子(火)、染矢和則(水)、中東三聖(木)  
矢西正明(金)、塚口裕康(金)

関西医科大学附属病院 腎センター